

3. 国際文化学部

I	国際文化学部の教育目的と特徴	3-2
II	「教育の水準」の分析・判定	3-3
	分析項目 I 教育活動の状況	3-3
	分析項目 II 教育成果の状況	3-16
III	「質の向上度」の分析	3-20

I 国際文化学部の教育目的と特徴

国際文化学部は「国境を越え、文化を横断し、活動する知性」をモットーとして、国際化時代の社会的要請に応えられる人材を育成するための教育活動に取り組んでいる。以下に本学部の教育目的、組織構成、教育上の特徴及び想定する関係者とその期待について述べる。

(教育目的)

- 1 本学部は、深い異文化理解と自在なコミュニケーション能力を身につけ、現代世界の文化状況を把握して、国境を越えて活躍しうる人材を育成することを目的としている。
- 2 この目的を達成するため、現行の中期目標では、「教育憲章」に掲げた、「人間性」、「創造性」、「国際性」及び「専門性」を身に付けた個性輝く人材を養成するため、国際的に魅力ある教育を学部・大学院において展開する。また、豊富な研究成果を活かして、社会の変化を先導し、個人と国際社会が進むべき道を切り拓く高度な知識・能力を有する、次世代の研究者をはじめとした多様な人材の養成に努め、教育の更なる高みを目指す。」ことを定めている。

(組織構成)

上記目的を実現するため、本学部では1学科、4講座の組織構成をとっている。《資料1》

《資料1：組織構成》

学科	講座 (教育研究分野)
国際文化学科	<ul style="list-style-type: none"> ○情報コミュニケーション論 (言語コミュニケーション論、感性コミュニケーション論、ITコミュニケーション論) ○現代文化論 (モダニティ論、先端社会論、芸術文化論) ○異文化コミュニケーション論 (異文化関係論、多文化共生論、越境文化論) ○地域文化論 (日本学、アジア・太平洋文化論、ヨーロッパ・アメリカ文化論)

(教育上の特徴)

- 1 上記のような人材を育成するために、全学共通教育との有機的連携を図りつつ、異文化理解のための多彩な外国語教育や高度な情報処理教育をも取り入れながら、グローバル化の進行する現代社会の文化的諸問題に学際的、文理融合的に取り組む様々な講義と、演習科目を中心とした少人数教育が有機的に統合された教育課程を編成している。
- 2 「異文化研究留学プログラム(ICSSAP)」を設け、交換留学を積極的に実施している。
- 3 文部科学省支援事業「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」の代表取組部局として、グローバルな舞台で活躍できる人材の育成を推進している。
- 4 平成25年度から「EUエキスパート人材養成プログラム」の担当部局として、日本とEUに関する広い学際的視野と深い識見を養うための学部2年次から博士課程前期課程までの一貫教育プログラムを実施している。

(想定する関係者とその期待)

本学部は、受験生・在校生及びその家族、卒業生及びその雇用者、並びに地域の高校等に関係者として想定し、国際的に活躍しうるグローバル人材の養成という期待に応えるべく教育を実施している。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

国際文化学部の教育体制は、情報コミュニケーション能力の開発を「情報コミュニケーション論講座」が、現代文化の多角的分析を「現代文化論講座」が、異文化理解の深化を「異文化コミュニケーション論講座」が、個別の地域文化研究を「地域文化論講座」がそれぞれ担い、外国語運用能力の向上について学部全体で取り組んでいる。専任教員は《資料2》のとおりで、本学部の開講する166の講義の内、専任担当率は約7割である。専任教員一人当たりの学生収容定員数は約8名であり、質的量的に必要な教員が確保されている。

入学者の選抜についてはアドミッション・ポリシーを定めて学部の目標に合致した学生を選抜している。《大学ポートレート参照》定員と現員については《資料3》、各講座への学生の収容数は《資料4》のとおりである。

本学部には教育改善に取り組む組織として自己評価委員会が設置され、自己点検・評価に関して各期の授業評価アンケート、卒業時アンケート、成績分布等の分析報告を教授会において報告している。特に成績分布に関しては、教授会において、「秀」～「不可」の分布状況をグラフにして示し、今後より適正な成績分布となるよう注意喚起を実施している。また、ファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)のための講演会《資料5》やピアレビューの開催、自己評価報告書の作成等を行っている。ピアレビューの結果は当該の教員や教務委員会、施設委員会等にフィードバックして、教育内容、方法、施設・環境の改善に努めている。

こうした教育体制の結果、平成22年度から27年度の授業評価でも、「教員対応」、「シラバス」、「満足度」、「総合評価」で、4点以上(満点は5点)の評価点を得ており、教育改善の効果が出ている。《資料6》また、本学部では少人数教育の演習科目を多数配置しているが、その授業評価も満点に近い水準を維持している。《資料7》

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

学生定員に対し配置されている教員数も適切であり、教育目的を達成する上で質・量ともに十分と言える。各講座の学生数はバランスが取れており、学生のニーズに適切に対応している。FD、ピアレビューについても定期的実施している。以上の結果、授業評価は高い水準を維持しており、本学部の教育の実施体制は期待される水準を上回ると判断する。

《資料2：教員の配置状況；単位：人》

(平成27年5月1日現在)

	教授		准教授		講師		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
現員	27	16	14	7	1	1	42	24
	43		21		2		66	

神戸大学国際文化学部 分析項目 I

《資料3：学生定員と現員の状況；単位：人》 (平成27年5月1日現在)

入学年度	区分	定員	入学者数	在学者数
平成24年度	国際文化学科	140	144(4)	139(4)
平成25年度	国際文化学科	140	144(4)	144(4)
平成26年度	国際文化学科	140	144(4)	143(3)
平成27年度	国際文化学科	140	148(3)	148(3)
計		560	580(15)	574(15)

*外国人留学生は内数で()に示す。

《資料4：所属状況一覧表》

講座名	H22	H23	H24	H25	H26	H27
情報コミュニケーション論	27	33	35	34	34	40
現代文化論	40	35	26	30	30	27
異文化コミュニケーション論	40	40	38	40	40	40
地域文化論	40	40	40	40	40	40
計	147	148	139	144	144	147

《資料5：FD講演会のテーマと参加者数》

年度(実施時期)	テーマ(講師)	参加者数
平成22年度(H23.1)	“Lecturing in English: The Case of Konkuk University in Korea (韓国の建国大学での英語での講義)”(曹周鉉・韓国建国大学教授)	56名
平成23年度(H24.1)	「立命館大学先端総合学術研究科9年の歩みに沿って」(西成彦・立命館大学教授)	83名
平成24年度(H25.2)	「思考する学生を育てるゼミ・論文指導—学びの共同体づくりと対話型教育—」(北野収・獨協大学教授)	67名
平成25年度(H25.10)	企業・学生両視点から見た「2014年卒就職マーケットスケジュールと15卒・16卒の展望と予測」(大黒光・株式会社リクルートキャリアディレクター)	70名
平成26年度(H26.5)	地方国立大学に人文社会系学部を新設する 長崎大学多文化社会学部創設の紆余曲折(増田研・長崎大学多文化社会学部准教授)	55名
平成26年度(H26.12)	学生の就職活動時期の変更について(城仁士・神戸大学キャリアセンター長)	34名
平成27年度(H27.6)	神戸大学学修管理システム(BEEF)の活用について(米谷淳・神戸大学大学教育推進機構教授, 熊本悦子・神戸大学情報基盤センター)	65名

	教授)	
平成 27 年度 (H27.9)	神戸大学初年次セミナーのねらい(近田政博・神戸大学大学教育推進機構教授)	56 名
平成 27 年度 (H28.2)	障害者差別解消法と来年度からの神戸大学の体制(村中泰子・神戸大学キャンパスライフ支援センター特命准教授)	62 名

《資料 6 : 全授業の授業評価》

	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
教員対応 (熱意)	4.3	4.4	4.4	4.5	4.4	4.4
準備状況 (自己学習)	1.6	1.6	1.6	1.9	1.8	1.9
シラバス	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1
理解度	4.0	4.0	3.9	4.2	4.1	4.0
満足度	4.2	4.2	4.0	4.2	4.2	4.1
総合評価	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	4.3

* 5段階評価で最高の評価を5点に換算。

《資料 7 : 演習の授業評価》

	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
教員対応 (熱意)	4.5	4.7	4.7	4.6	4.5	4.7
準備状況 (自己学習)	2.5	2.7	2.6	3.0	2.9	2.6
シラバス	4.4	4.3	4.3	4.2	4.3	4.1
理解度	4.3	4.4	4.3	4.3	4.4	4.4
満足度	4.6	4.7	4.5	4.6	4.5	4.5
総合評価	4.7	4.8	4.7	4.8	4.5	4.7

* 「基礎ゼミ」「演習A」「演習B」の授業評価アンケートを基に作成。5段階評価で最高の評価を5点に換算。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

国際文化学部は明確にアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー《大学ポートレート参照》を定め、教育課程を編成している。授業科目は全学共通授業科目(教養原論、外国語科目、情報科目、健康・スポーツ科学)と、本学部の専門科目及び他学部の授業科目も含めた自由選択科目から成り、卒業単位(136単位)に占める割合は約2:7:1である。《資料8》及び《別添資料1:平成26年度前期・後期時間割》

専門科目も各講座の履修モデルに従って、卒業研究に至るまでに、講義科目、演習科目、外国語科目等を体系的に履修する。必修、選択科目の比率は約2：3であり、学際性を重視して選択科目の比重を高くしている。講義科目は、幅広いコミュニケーション行為を探る「非言語コミュニケーション論」、国際関係の視点から多文化共生の新たな可能性を模索する「国際関係論」等々、情報化社会や多文化社会の諸問題の解決を指向した実践的な講義を主体としている。《資料9：平成27年度「国際関係論」シラバス》演習科目は1年次で「基礎ゼミ」（高校から大学への転換教育と学生の主体的な学習習慣を養うための演習）を導入し、2年次からの「専門演習A、B」では講座の枠を超えた複数履修も可能とし、学際的研究を推奨している。また、学術的内容を伴った外国語運用能力を高めるため、多種類の「外国語演習」も展開している。必修の「専門基礎英語」や「外国語会話」などはすべてネイティブの教員が担当し、学生の学習意欲を引き出している。

さらに、本学部では学生や社会の多様な要請に対応するため、次のような特色ある取組を行っている。

(1) 「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」への取組

本プログラムは、国際文化学部を中心取組部局として、人文科学系及び社会科学系の6学部（国際文化学部、文学部、発達科学部、法学部、経済学部、経営学部）と2研究科（人文学研究科、経済学研究科）がそれぞれの教育プログラムを通じて互いの専門性を越えて協力し、深い教養と高度な専門性、グローバルな視野と卓越したコミュニケーション能力を備えた「問題発見型リーダーシップ」を発揮できる「グローバル人材」を育成し、社会からの要請に対応している。

本学部では、特に次のような具体的取組を組み合わせ、上記「グローバル人材」の養成を目指している。

① 異文化研究留学プログラム (ICSSAP)

このプログラムは、1年間の海外留学と留学先での単位取得を柱とした体系的な留学プログラムであり、グローバルな課題の発見・日本との比較・問題の乗り越え方を高いレベルで身につけることを目指している。平成27年4月現在、21の国・地域39大学と交換留学を行っている。学生が満たすべき要件として、

- ・留学先での取得単位の認定（30単位以内）（本学部専門科目との読み替え、もしくは外国大学修得単位として認定）
- ・英語運用能力の向上（英語力スタンダード：TOEIC 760 / TOEFL iBT 80）
- ・社会還元（後進育成への貢献や世界的視野の獲得）

等を掲げ、要件を満たした学生に修了証を発行している。《資料10》《資料11》（「Ⅲ質の向上度の判断」事例①参照）

② グローバル専門科目の配置

問題発見・課題解決能力と英語運用能力の統合的涵養のため、「グローバル専門科目」として、「環境倫理学」、「ジェンダー社会論」、「メディア文化論」等、英語による講義及び外国語による演習を多数開講している。《資料12：平成27年度「ジェンダー社会論」シラバス》

③ 新入生に対する TOEFL-ITP の実施

外部の英語試験によって自己の英語能力を客観的に認識させると同時に、留学に向けて早期準備を促すべく、入学直後に TOEFL-ITP (TOEFL の模擬試験) を実施している。平成 26 年度のアンケートでも高い評価を得ている。《別添資料 2 : TOEFL-ITP 受験に関するアンケート集計結果》《別添資料 3 : 平成 24 年度入学生 TOEFL スコア増減分析》

(2) EU エキスパート人材養成プログラム (KUPES)

「EU エキスパート人材養成プログラム」は、神戸大学日欧連携教育府の運営のもと、国際文化・経済・法の 3 学部・研究科を実施部局として、EU 圏留学を必修とするなど学部 2 年次から博士前期課程まで 5 年間の一貫したカリキュラムにより、本学と EU 圏の大学におけるダブルディグリーへと結実させる学位プログラムである。EU の社会文化・法・政治・経済的側面について専門的かつ分野横断的に研究する能力や高度な語学力を段階的に習得できる。さらに、EU 圏大学への学部段階での交換留学 (半年～1 年) と、博士前期課程でのダブルディグリーの取得を目指した留学 (1 年) によって、複眼的な視野と国際的な人脈を広げることができる。英語と他の EU 公用語の語学教育を充実させ、留学先での学修やインターンシップ等の活動に困らない語学力を育成する。平成 27 年度現在、学部 3 年生 9 名、学部 2 年生 7 名が参加している。

(3) インターンシップ (海外含む) : JICA 兵庫、国際交流協会、国際交流基金等と覚書を交わし、平成 22 年度から 27 年度までに 21 名を派遣し、申請のあった 18 名に対して「インターンシップ実習」(2 単位) を認定した (内、海外機関での認定は 3 名)。《資料 13》

(4) 外部機関との連携講義: 企業役員や JICA 等の講義をキャリア教育として行っている。また、JAXA との連携講義として「宇宙文化学」という斬新かつ文理融合的な講義を実施している。《資料 14》

(5) 他学部の授業履修 : 法学部等の「関連科目」も含め、他学部の科目を 16 単位まで卒業要件に算入することが可能であり、関連領域の学習を促している。《資料 15》

その他、本学部では円滑な授業運営を行うためにティーチングアシスタント (TA) を適切に配置している。《資料 16》また、「優秀卒業論文賞」を授与し (平成 25 年度 4 名、平成 26 年度 3 名、27 年度 4 名受賞)、卒業研究への主体的、意欲的取り組みを支援している。《別添資料 4 : 平成 26 年度「優秀卒業論文賞」受賞者一覧 (平成 27 年 3 月学部教授会資料 6)》

学生の主体的な学習を促す取組としては、シラバスでは授業計画のみならず、履修上の注意やアドバイス、参考書も掲載し、自学自習できるように配慮している《資料 17》。また、学習支援環境として、学生交流ルーム「IC カフェ」(Intercultural Café) を設け、外国語や就職関係を含む書籍・雑誌等を置き、自習、情報交換、留学生との交流等の場として活用している。視聴覚教材も整備された国際文化学図書館は、平日午前 8 時 45 分から午後 9 時 30 分まで、授業のない土曜日も午前 10 時から午後 6 時まで開館している。また、学内共用施設として、「ラーニング・コモンズ」及び外国語自習用パソコン教材も配備した「ランゲージ・ハブ」室も設置されている。

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

本学部の教育目標の中心にある異文化理解について、講義と少人数討論型の専門演習、情報教育等を通じて分析能力・問題解決能力・コミュニケーション能力を養成するという、体系的かつ多様な教育課程が編成されている。「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」の取組として、英語を含む諸外国語による「グローバル専門科目」を設置するとともに、外国大学への留学も単位認定制度によって奨励し、かつEUエキスパート人材養成プログラムの実施によって、グローバル化に対応した人材育成に積極的に取り組んでいる。また、JICA、JAXA との連携によるキャリア教育、文理融合教育等を実施し、学生から高い評価を得ている。このように本学部では学生や社会の要請に対応した教育課程が編成されている。授業の全体的構成は学部の教育目的に合致したものであり、卒論表彰制度なども設けて学生の学修意欲を高めている。また、学生の主体的な学習を促す施設も整備されている。以上を総合して、本学部の教育内容・方法は期待される水準を上回ると判断する。

《資料 8 : 履修要件》

授業科目の区分等		授業科目等	必要修得単位数	
教養原論		人間形成と思想、文学と芸術、人間と社会、法と政治、数理と情報、総合教養等	16	
外国語科目		英語リーディング I、英語リーディング II、英語オーラル I、英語オーラル II	各 1	4
		独語 I A、独語 I B、独語 IIA (又は S A)、独語 IIB (又は S B) の他に仏語、中国語、ロシア語の同種の授業 (1 外国語を選択)	各 1	4
健康・スポーツ科学		健康・スポーツ科学実習 I	1	1
情報科目		情報基礎	1	1
本学部専門科目	必修科目	基礎ゼミ (2)、専門基礎英語 (文章表現、会話) I (1)、専門基礎英語 (文章表現、会話) II (1)、情報科学概論 (2)、情報科学演習 I (2)、卒論演習 (2)、卒業研究 (10)	左記カッコ内	20
	選択必修科目	各講座開講の「概論」(4)、所属講座開講の講義科目 (10)、所属講座開講の専門演習 A (2 年次前期) (2)、所属講座開講の専門演習 B (2 年次後期、3 年次前期及び後期に各 1 演習) (6)、外国語演習 (2)	左記カッコ内	24
	学部選択科目	本学部が開設する授業科目から		50
自由選択科目	本学部専門科目、他学部授業科目、全学共通授業科目及び資格免許のための科目から。(ただし、資格免許のための科目の内、教職に関する科目、英米文学概論、日本国憲法及び博物館実習は除く。)			16
合 計				136

(『平成 26 年度学生便覧』、p 98、表記を一部簡略化)

《資料 9：平成 27 年度「国際関係論」シラバス抜粋》

<p>授業のテーマと到達目標</p>	<p>国際関係の基本的枠組み（歴史の大枠や基礎的理論）と、現代国際関係の主要課題を理解する視座を、とくに「文化」の視点から掘り下げる。地域としては EU（欧州連合）に軸足を置いて講義を行う。 多文化の共生をめぐる問題は、国家内にとどまらず、広く国際社会に関わっている。国民あるいは国家を一つの文化的集団と捉えるならば、国際関係も地球という一つの社会における多文化共生のあり方を問う対象領域である。また、現代国際関係においては、国民国家だけでない多様なアクターが登場している。こうした要素を含め、国境をこえて生起する多様な異文化コミュニケーションの場としての国際関係をリアルに認識できるようにしたい。EU の検討は、そうした格好の題材となる。 [EUIJ 科目]</p>
<p>授業の概要と計画</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論への文化の観点からのアプローチ 2. 国際関係の展開 3. 国際関係の基礎理論 4. 外交と国益：外交政策はどのように決定されるのか 5. 予防外交の意義と実践 6. 安全保障の変容 7. 地域統合の意義：EU 統合を中心に 8. EU における民族問題 9. EU 拡大と多文化共生 10. 日 EU 関係 11. グローバリゼーションの功罪：誰のためのグローバリゼーションか？ 12. 多文化共生を可能にする国際関係とは？ <p>なお、ビデオを見て考察するなどの時間を適宜織り交ぜる。</p>
<p>履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)</p>	<p>新聞の国際面等に絶えず目を通し、授業で触れるアクチュアルな国際問題への認識を深めること。教科書の関連箇所は授業時に指摘するので、授業後に読み込んで理解を深めること。</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>国際安全保障論 / 吉川元：有斐閣 ,2007 ,ISBN:新版グローバリゼーション 国際関係論 / 坂井一成（編）：芦書房 ,2014 ,ISBN:ヨーロッパ統合の国際関係論 [第 2 版] / 坂井一成（編）：芦書房 ,2007 ,ISBN:</p>

《資料 10：留学した学生に対する単位認定状況（平成 22 年～平成 27 年）》

国/地域	協定校	H22 年度			H23 年度			H24 年度			H25 年度			H26 年度			H27 年度		
		A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
タイ	タマサート大学	2	2	55	2	2	44	1	1	30	2	2	47	1	1	22	1		
フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	2	2	49	1	1	22	1	1	16									
ベトナム	ベトナム国家大学 ホーチミン市	1	1	30	1	1	27												
韓国	釜山国立大校	1	1	28	4	3	74	1	1	7	1	1	26	1	1	29			

神戸大学国際文化学部 分析項目 I

	ソウル国立大学校				1	1	25											
中国	中国人民大学							2	2	34	1	1	18	1	1	18	1	
	香港大学							1	1	23	1	1	15	1				
台湾	国立台湾大学												1	1	30	1		
オーストラ リア	カーティン大学				1	1	24											
	クイーンズランド大学				2	2	21	1					2	2	33	1		
	西オーストラリア大学				1			1	1	15	2	2	26	3	3	57		
カナダ	ヒューロン・ユニバー シティ・カレッジ																	3
アメリカ合 衆国	ジョージア大学				2	2	44	2	1	21	1	1	24	1	1	24	4	
	テネシー大学				2	2	46	1	1	29								
	ニューヨーク市立大学 クイーンズ・カレッジ																	4
	メリーランド大学				1	1	24											1
	ユタ州立大学	1	1	21	2	1	23	2	2	52	1	1	23	2	2	49	1	
	ピッツバーグ大学				2	2	45				1	1	21					
	ワシントン大学	2	2	29	1	1	21	2	2	56								
デンマーク	オーフス大学	3	1	3	3	3	38	2	1	10	2	2	17					
英国	シェフィールド大学										1	1	10	1	1	30	1	
	バーミンガム大学	2	1	12				2	2	18	1	1	20					2
	マンチェスター大学	2	2	28	3	2	29	3	3	47	2	2	36	2	2	28	3	
	ロンドン大学 東洋アフリカ研究学院	1	1	8	1	1	9				2	2	30					1
ベルギー	サンルイ大学																	1
	ルーヴェン大学				1	1	9	2	2	20	2	2	28	2	2	30	1	
オランダ	ライデン大学				1						1	1	10					
ドイツ	ハンブルク大学	4	2	15	3	3	44	3	3	46	2	2	29	2	2	24	3	
	ベルリン自由大学													1	1	20	2	
	ライプツィヒ大学													2	2	35	2	
フランス	グルノーブル第3大学				2	2	31	3	2	21	3	3	44	2	2	25	2	
	ニース大学	3																
	レンヌ第1大学							2	2	38	2	2	26	2	2	29	1	
	パリ第2大学	1			1			1	1	8								
	パリ第7大学	2	2	22	2	2	24				1	1	15	1	1	15	1	
	パリ第10大学	2												1	1	13		
スペイン	バルセロナ自治大学													3	3	45	2	
	サラマンカ大学													1	1	21		
イタリア	ナポリ東洋大学																	1

神戸大学国際文化学部 分析項目 I

	ボローニャ大学 フォルリ校	2	1	18	2	1	3	1	1	6	2	2	25	1	1	17	2
	ヴェネツィア大学							1	1	11	2	2	39	2	2	18	1
オーストリア	グラーツ大学	1			3	2	24	1									1
ポーランド	ワルシャワ大学	2	1	6				2	2	33	1	1	18	2	2	42	2
	ヤゲウォ大学													3	3	70	
チェコ	カレル大学				2			1						1	1	19	
ルーマニア	バベシュ・ボヨイ大学	2	2	53				1	1	29				1	1	29	
ロシア	モスクワ教育大学				2	1	18	1	1	16	2	2	41	1			2

A:派遣学生数, B:単位認定申請者数, C:認定単位数 *平成 27 年度は派遣中のため, 単位認定状況は未定

《資料 11：異文化研究留学プログラムに関する申合せ》

<p>国際文化学部 異文化研究留学プログラム (Intercultural Studies Study Abroad Program, ICSSAP) に関する申合せ (平成 26 年 7 月 18 日制定)</p> <p>国際文化学部が掲げる教育目標は、グローバル社会において生じる課題を主体的に発見する知性と、その課題に対する解決策を提示しかつ実践するリーダーシップを備えた人材を養成することにある。</p> <p>そのため国際文化学部では、様々な文化や社会の動態を理解し、外国語の高い運用能力を駆使して、諸問題の解決に向けて社会に発信できる力を涵養するべく、1年間の海外留学と留学先での単位取得を柱とした体系的な留学プログラムを整える。</p> <p>1. 国際文化学部（以下「本学部」という。）異文化研究留学プログラム（以下「ICSSAP」という。）を修了しようとする学生は、以下(1)～(5)に定める要件をすべて満たさなければならない。</p> <p>(1) 「国際コミュニケーション演習」を、I～IVの中から2単位以上修得すること。</p> <p>(2) 「Cultures and Societies in Japan」を、I～IVの中から2単位以上修得すること。</p> <p>(3) 本学部在籍中に、外国の大学のうち、神戸大学もしくは本学部と協定を結んでいる大学、又は本学部が適当と認めた大学に1学期以上留学し、留学先で修得した単位を本学部の「外国大学修得単位」もしくは本学部授業科目として4単位以上認定されること。</p> <p>(4) 外国語によって作成した研究レポートを、留学帰国後半年以内に教務学生係に提出すること。レポートの長さは、作成言語が英語であれば1,500～3,000語程度を目安とする。それ以外の言語については、これに相当するものを目安とする。</p> <p>(5) 留学から帰国後、オープンキャンパス、後援会との懇談会、留学説明会等において留学の成果を報告することによって、後進の育成に寄与すること。</p> <p>2. ICSSAPの修了については、次のとおりとする。</p> <p>(1) 修了の認定は、本学部の教授会において行う。</p> <p>(2) 修了を認定された者については、修了認定証を授与する。</p> <p>(3) 修了認定証の様式は、別に定める。</p> <p>(4) 修了認定証は、原則として学位記授与式の日に交付する。</p>	
--	--

《資料 12：平成 27 年度「ジェンダー社会論」シラバス抜粋》

授業のテーマ	The concept of gender and the surrounding theory explicates differences
--------	---

神戸大学国際文化学部 分析項目 I

と到達目標	between the sexes as a product of social power relationships, and can be applied to building a society in which diverse lives can pursue diverse happiness in their own ways. Based on these ideas, this course aims to overturn your ‘common sense’ about human experiences, relationships and daily-life practices. This is also an opportunity to train yourself to analyse issues with a gender perspective, from micro to macro, and local to global, including the widening gap between the rich and the poor in Japan, and its linkage to the global wealth gap.
授業の概要と計画	<p>Outline: While introducing basic social theories, concepts of gender and sexuality, feminism, queer theory and its history, this course connects our daily-life relationships to broad issues such as global social problems, human rights and questions of humanity.</p> <p>Plan: Apart from lectures, this course may use audio-visual material and/or group discussion if time and the class size permit.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction about the lecturer, course outline and method of evaluation 2. Gender discrimination and gender roles 3. 'As Nature Made Him' 4. Is gender difference natural? 5. The sinful dualism of sexes 6. Queer theory and identity politics 7. A quick look at 'Hush!' 8. Other types of discrimination than sexism: leaning from post-colonialism 9. Nationalism and gender 10. Feminisation of poverty, labour and migration 11. Emotional, care and sex labour 12. Trafficking in persons and migrant work 13. Global sex trade as sexwork 14. Conclusion
履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)	The theme of each week above may change/be swapped.
学生へのメッセージ	<p>Provided with English Language; a challenge to you.</p> <p>Proactive participation and curiosity without looking for the one-and-only answer are musts. Whilst you will have liberty to report your attendance by yourself, you probably cannot write a good essay without fully participating in the course.</p>
参考書・参考資料等	<p>Introduced each week</p> <p>Introducing Gender & Women's Studies: Third Edition / Diane Richardson ed. : Palgrave Macmillan , 2008 , ISBN:9780230543003</p> <p>Transforming Japan: How Feminism and Diversity Are Making a Difference / Kumiko Fujimura-Fanselow ed. : Feminist Press, University of New York , 2011 , ISBN:9781558616998</p> <p>ジェンダー論をつかむ / 千田有紀・中西祐子・青山薫 : 有斐閣出版 , 2013 (予定) , ISBN:9784641177161</p>

《資料 13：インターンシップの単位認定に関する内規》

<p>(目的)</p> <p>第1条 この内規は、神戸大学国際文化学部規則（平成16年4月1日制定）第4条で定める授業科目「インターンシップ実習」（2単位）の単位認定の手続きを定めることを目的とする。</p> <p>(単位の申請方法)</p> <p>第2条 企業団体等が神戸大学又は国際文化学部（以下「本学部」という）と協定等を締結してインターンシップを実施する場合、当該インターンシップに参加した本学部学生は、インターンシップに参加した時期に応じて、前期または後期の単位として、「インターンシップ実習」の単位を本学部に対し申請することができる。</p> <p>2 単位申請の対象となるインターンシップは、実習時間が60時間以上のものとし、原則として無報酬でなければならない。</p> <p>3 休学期間中に従事したインターンシップは、単位申請の対象にならない。</p> <p>4 「インターンシップ実習」の単位の申請を希望する学生は、下記の書類を教務学生係に提出するものとする。</p> <p>(1) インターンシップに関わる単位申請書</p> <p>(2) 受入先の評定書</p> <p>(3) インターンシップ報告書</p> <p>(単位の認定方法)</p> <p>第3条 学部教授会は、インターンシップに参加した学生が当該単位の申請のために提出した書類を審査し、単位認定について可否の判断を行う。</p> <p>(単位数の上限)</p> <p>第4条 「インターンシップ実習」の単位は、受入先が異なれば、最大4単位まで卒業要件に算入することを認める。</p>

《資料 14：「国際文化特殊講義」、「グローバルキャリアセミナー」の履修状況》

年度	科目名	履修登録者数	単位修得者数
H22年度	国際文化特殊講義（JICA）	143	137
H23年度	国際文化特殊講義（JICA）	140	138
H24年度	国際文化特殊講義（JICA）	134	122
H25年度	国際文化特殊講義（JICA）	94	84
H25年度	国際文化特殊講義（JAXA）	30	30
H25年度	グローバルキャリアセミナー	16	11
H26年度	国際文化特殊講義（JICA）	84	77
H26年度	国際文化特殊講義（JAXA）	17	16
H26年度	国際文化特殊講義（アジア共同体）	52	37
H26年度	グローバルキャリアセミナー	40	31
H27年度	国際文化特殊講義（JICA）	138	136
H27年度	国際文化特殊講義（JAXA）	23	23
H27年度	国際文化特殊講義（アジア共同体）	91	78
H27年度	グローバルキャリアセミナー	25	21

《JICA 及び JAXA との連携授業の授業評価》

	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
満足度	4.3	4.2	4.2	4.5	4.3	3.6
総合評価	4.4	4.3	4.4	4.6	4.6	3.9

《資料 15：他学部の授業科目の履修状況》

年度	単位修得科目数	修得単位総数
H22 年度	217	431
H23 年度	179	378
H24 年度	274	553
H25 年度	255	519
H26 年度	227	459
H27 年度	248	522

《資料 16：TA の採用実績》

年度	講義科目	演習・外国語科目等	人数
平成 22 年度	32 名	34 名	53 名
平成 23 年度	31 名	23 名	54 名
平成 24 年度	29 名	51 名	62 名
平成 25 年度	32 名	28 名	51 名
平成 26 年度	33 名	38 名	68 名
平成 27 年度	40 名	32 名	51 名

*科目別の人数については延べ人数。但し、右端の人数については実人数。

《資料 17：平成 27 年度「ガバナンス論」シラバス抜粋》

授業のテーマと到達目標	<p>グローバル・ガバナンス、ローカル・ガバナンス、さらにマルチレベル・ガバナンス等に示されるように、近年「ガバナンス」(governance)という言葉が目立って使用されるようになってきた。ガバナンス論台頭の背景には、1980 年代以降の新自由主義的潮流の台頭やグローバル化の進展に伴い、政府 (government) という形で統治機能を独占してきた国家の役割が、相対化されつつあるという状況がある。本講義では、国内政治と国際政治の交錯をはじめ、主として先進諸国を中心に、経済のグローバル化が各国の戦後政治経済体制に及ぼす影響や変容の諸相、経済発展と政治的民主化の相互関係、さらにヨーロッパ統合という国民国家を超えた政治の実験について、比較政治経済学や国際政治経済学の視点から検討したい。</p>
授業の概要と計画	<p>1. 比較政治と国際政治の交錯?アリソン・モデルから two-level game へ 2. 国際政治経済学の諸潮流?リアリズム、リベラリズム、従属論、世界システム論</p>

	<p>3. 戦後政治経済体制</p> <p>4. 福祉国家の再編?収斂論 convergence と分岐論 divergence</p> <p>5. グローバル化の政治経済学</p> <p>6. 経済発展と政治的民主化</p> <p>7. ガバナンスとは?</p> <p>8. ヨーロッパ統合と Multi-Level Governance</p>
<p>履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)</p>	<p>講義の進行に沿ってレジュメや資料を配付する。</p> <p>主要テーマ毎に事前に文献を配布する。履修者は、予め文献を読み、主要な語彙について独自に調査するなど、文献の内容について予習の上授業に参加することが求められる。授業では、教員からの問いかけとそれに対する履修者の応答を通じて、理解を深める。授業の終わりには、質問カードに質問等を記載し提出してもらおう。次回の冒頭では、質問カードから幾つか取り上げ、補足説明を行う。</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>本講義は、比較政治経済学、国政政治経済学を主要なテーマとしていますが、現象に対する社会科学的アプローチの習得も目標としています。</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>新川敏光他『比較政治経済学』有斐閣、2004年。</p> <p>河野勝・竹中治堅編『アクセス国際政治経済論』日本経済評論社、2003年。</p> <p>講義中に適宜プリントを配布するほか、参考文献を指示する。</p>

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

4年次における卒論題目提出資格の判定は、概ね90%以上が履修可となっている。《資料18、19》平成22年4月に4年次に進学した段階での休学者の割合は、概ね2.8%（4名）であり、順次年度を下って、9.7%（14名）、10.4%（15名）、13.6%（20名）、12.8%（19名）、8.6%（12名）である。休学の主な理由は海外語学研修、協定校以外への留学等である。退学者については、平成27年5月1日時点で19年度生3名、20年度生1名、21年度生3名、23年度生1名退学者がいるのみで、入学後の定着率は極めて高い。《資料3 p3-3》4年で卒業する正規卒業生の割合は《資料20》のとおり平均して約55%に留まっているが、これは長期の留学や海外研修に赴く学生が多いことによる。交換留学の場合、制度的には4年で卒業できるが、就職活動時期との関係から、卒業を1年延期する学生も多くいるのが現状である。しかし、海外協定大学での修得単位については、平成22年度から平成26年度の5年間で平均563単位を認定しており、本学部の教育効果の一端を示している。《資料10 p3-9》

平成26年度授業評価アンケートにおける全専門科目の総合評価を見ると、「教員対応」、「シラバス」、「理解度」、「満足度」、「総合評価」の各項目の平均評価点がいずれも4以上となっている（評価は5段階で、一番高い評価項目は5点、一番低い評価項目は1点と換算）。また授業形態別の集計でも、「満足度」を含む概ねすべての項目で、4～4.5点の範囲に評価が置かれ、とりわけ「教員対応」、「総合評価」において高い評価値を得ている。《資料6 p3-5》また、対話・課題探求型の少人数教育を目指して導入した「専門演習A、B」はさらに高い肯定的回答を得ている。《資料7 p3-5》

卒業生に関しても、平成26年度卒業時アンケートにおいて、回答者の9割以上が「本学部の卒業してよかった」と答え、入学時と比較した能力・知識（一般教養、問題発見・分析・解決能力、異文化理解力、リーダーシップ、人間関係構築能力、文章表現・プレゼンテーション能力、コンピュータ操作能力、グローバルな問題の理解力）の変化についても8割強が「増進した」と評価している。《別添資料5：平成26年度卒業時アンケート結果》

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

4年次における卒業研究履修判定の状況、入学者数に照らして見た休学者、退学者、卒業生の状況、海外協定校での履修科目の単位認定状況などから判断して、教育目的に沿った効果が着実にあがっている。またアンケート結果を見ても、在学生、卒業生とも本学部の教育に非常に高い満足度を示しており、学業の成果は期待される水準を上回ると判断する。

《資料 18：「卒業論文に関する内規」(抜粋)》

卒業論文に関する内規 (抜粋)	
第4条 卒業論文題目提出の資格は、次の単位を修得した者とする。	
(1) 全学共通授業科目：教養原論	8 単位
外国語 (英語 4、その他の外国語 4)	8 単位
健康・スポーツ科学実習 I	1 単位
(2) 専門科目：次に掲げる必修科目	10 単位
各専攻分野 (以下「講座」という。) 開設の「概論」から 2 科目	4 単位
専門基礎英語 (文章表現、会話) I	1 単位
専門基礎英語 (文章表現、会話) II	1 単位
情報科学概論	2 単位
情報科学演習 I	2 単位

《資料 19：卒業研究履修判定(前期)の状況》

履修判定年度	4 年次における「卒業研究」履修の可否	
平成 22 年度	平成 19 年度入学判定対象者	143 (4) [休学率 2.8%]
	合格者	138 (3) (合格率 96.5%)
	不合格者	5 (1)
平成 23 年度	平成 20 年度入学判定対象者	144 (14) [休学率 9.7%]
	合格者	134 (8) (合格率 93.1%)
	不合格者	10 (6)
平成 24 年度	平成 21 年度入学判定対象者	144 (15) [休学率 10.4%]
	合格者	136 (11) (合格率 94.4%)
	不合格者	8 (4)
平成 25 年度	平成 22 年度入学判定対象者	147 (20) [休学率 13.6%]
	合格者	132 (7) (合格率 89.8%)
	不合格者	15 (13)
平成 26 年度	平成 23 年度入学判定対象者	148 (19) [休学率 12.8%]
	合格者	134 (6) (合格率 90.5%)
	不合格者	14 (13)
平成 27 年度	平成 24 年度入学判定対象者	139 (12) [休学率 8.6%]
	合格者	124 (0) (合格率 89.2%)
	不合格者	15 (12)

*人数に併記した () 内は休学者数を内数で示し、参考として休学率も示す。また合格率のパーセンテージは判定対象者に対する合格者の割合を示す。

《資料 20：正規卒業生数と割合》

入学年度と入学者数	4年後の3月の卒業生数	正規卒業生数	過年度卒業生数	正規卒業生の割合
平成19年度 145(3)	平成23年3月 139(2)	82(2)	57	59.0%
平成20年度 145(1)	平成24年3月 143(1)	84(1)	59	58.7%
平成21年度 146(4)	平成25年3月 142(3)	74(3)	68	52.1%
平成22年度 147(3)	平成26年3月 137(0)	70(0)	67	51.1%
平成23年度 148(6)	平成27年3月 153(6)	87(5)	66	56.9%
平成24年度 144(4)	平成28年3月 127(5)	70(4)	57	55.1%

* () 内は留学生の人数を内数で示す。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

本学部卒業生の就職率は例年 90%を越え、全国の文系学部の中でも極めて高い水準にあり、全国的にも高評価を受けている。《資料 21 進路状況(学士課程)》《東洋経済オンライン「就職で差が付く「本当に強い大学」ランキング」2015.8.27》では、本学部は「外国語・国際系」で就職率1位にランクされた (<http://toyokeizai.net/articles/-/81979?page=5>)。多くの卒業生からも、本学部で学んだことがその後のキャリア形成に大いに役立ったとの声が寄せられている《別添資料6：『学部案内2016』36頁》。就職先は《資料22》のように多岐にわたるが、JICAなどの国際機関、海外展開する企業や外資系企業への就職を実現させている者も多い(例えば、アメリカの大学への留学後、現地でのキャリアフォーラムに参加し、複数の現地企業から内定を得た学生がいる)。また、卒業生の内10%程度の学生が本学、京都大学、大阪大学等の大学院に進学し、最近ではイギリスやフランスなど海外の大学院に進学する学生も増えている。

こういった良好な進路・就職状況には、全国の国立大学に先駆けて、「キャリアデザインセンター」を設置し、充実した進路支援活動を展開していることが大いに寄与している。「キャリアデザインセンター」は本学部及び国際文化学研究科内に設置された、就職及び進学を支援する委員会の略称で、ホームページで学生の就職、進学、インターンシップに関する情報を提供するとともに、各種企業説明会、就職活動体験報告会等を開催している《資料23》。

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

各種資料等に見られる極めて良好な進路・就職状況、メディアによる学部別就職率ランキングなどの統計結果、さらには卒業生からの声や社会における活躍から見ても、グロー

神戸大学国際文化学部 分析項目Ⅱ

バル化した社会における有為な人材の育成を期待する各界の要望に充分に応えており、質量ともに、本学部の進路・就職状況は期待される水準を上回ると判断する。

《資料 21：進路状況（学士課程）》

卒業年度	卒業 者数	卒業 者 進 路 内 訳					就 職 希 望 者 数	進 学 率	就 職 率	就 職 希 望 の 職 率	
		進 学 者			他 大 学	就 職 者					そ の 他
		本 学		他 大 学							
		本 研 究 科	他 研 究 科								
H22	151	5	0	6	127	13	140	7%	91%	91%	
H23	146	7	1	5	123	10	133	9%	92%	92%	
H24	132	4	3	3	115	7	122	8%	94%	94%	
H25	139	7	2	2	114	14	128	8%	89%	89%	
H26	153	6	1	7	129	10	133	9%	93%	97%	
H27	128	2	0	2	113	11	121	3%	91%	93%	
平均	142	5.2	1.2	4.2	120.2	10.8	129.5	7.3%	91.7%	93%	

《資料 22：平成 26 年度卒業生の主な就職先》

商社	情報システム	マスコミ	出版	ホテル
住友商事、伊藤忠商事など	NTT コミュニケーションズ、丸紅情報システムズ、コベルコシステム、セゾン情報システムズなど	NHK, 共同通信社、テレビ高知など	JTB パブリッシング	ポートピアホテル、ホテルオークラ神戸、帝国ホテルなど
人材サービス	教育サービス	流通／小売	トラベル／航空／運輸	食品／水産／農林
リクルートキャリア、リクルートスタッフィングなど	ベネッセコーポレーション、代々木ゼミナールなど	大丸松坂屋百貨店、ファーストリテイリング、イオンディライトなど	JR 西日本、京阪電気鉄道、東京急行電鉄、三井商戦など	キリン、ハウス食品など
電機／機械／材料	医薬／化学	金融	保険	インフラ
東芝、三菱電機、日立製作所、日産車体、デンソー、クボタ、ダイキン工業、住友ゴムなど	カネボウ化粧品、ポーラファルマ、三菱ガス化学など	三井住友銀行、京都銀行、滋賀銀行、百十四銀行、ゆうちょ銀行など	東京海上日動火災保険、明治安田生命保険相互会社	大阪ガス
建設／住宅／不動産	公務員			
大和ハウス工業、長谷工コミュニティなど	兵庫県庁、福岡市役所、国土交通省など			

《資料 23：平成 26 年度就職ガイダンス等実施状況》

日 時	内 容	参加者数
10 月 27 日 (月)	就職ガイダンス第 1 回「スタートアップ」	45
11 月 19 日 (水)	就職ガイダンス第 2 回「エントリーシート対策講座」	50
12 月 5 日 (金)	就職ガイダンス第 3 回「面接対策講座」	90
12 月 12 日 (金)	就職体験報告会	11
1 月 29 日 (木)	就職ガイダンス第 4 回「就職活動直前対策講座」	30

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

事例① 「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」への取組

本学部は、平成24年度に採択された文部科学省支援事業「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」の代表取組部局として、グローバルな舞台で活躍できる人材の育成を推進している。本学部における取組は多岐にわたるが、代表的なものを以下に掲げる。

- ・異文化研究留学プログラム (ICSSAP) 《資料11 p3-11》
- ・長期交換留学
 - 異文化研究留学プログラム (ICSSAP) の一環として、海外大学との交換留学に積極的に取り組んでいる。《資料24》交換留学は、本学部の学生は海外大学において多くの授業をとり、単位を認定されている。《資料10 p3-9》また、交換留学制度は、受入れ学生との交流によって、留学前の、あるいは留学しない学生にとっても異文化理解を深化させる重要な機会を提供している。
- ・1年次入学直後に行う TOEFL-ITP 試験受験 《別添資料3》
- ・1-2年次での学部独自の外国語教育及び諸外国語による「外国語演習」《資料8 p3-7》
- ・英語を含む外国語によるグローバル専門科目の開講 《資料12 p3-11》
- ・海外での短期研修 《資料25》
- ・短期語学研修 トロント大学 (英語、8-9月、15名程度)、ハンブルク大学 (ドイツ語、8-9月、10名程度)
- ・海外インターンシップ ローマ日本文化会館等 《資料13 p3-13》

以上のような取組の結果、本「グローバル人材育成支援」事業において、本学部が設定しているグローバル人材の基準を満たす学生数は着実に伸びている。《資料26》

《資料24：平成22～27年度の協定校との交換留学実績》

協定校	H22年度		H23年度		H24年度		H25年度		H26年度		H27年度		総数	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
中央民族大学												2		2
中国人民大学		1			2	4	1	1	1	1	1	1	5	8
北京外国語大学						1						1		2
香港大学					1		1		1					3
釜山国立大学	1	4	4	2	1	3	1		1	1		1	8	11
ガジャマダ大学										2		3		5
アテネオ・デ・マニラ大学	2		1		1									4
タマサート大学	2	2	2	2	1	2	2	2	1	2	1	1	9	11
ベトナム国家大学	1		1	2		1				6		4	2	13
カーティン大学		1	1	3		3		1				2	1	1
シェフィールド大学		1		2		2	1	2	1		1	1	3	8
バーミンガム大学	2			3	2	1	1	2		1	3	5	8	12
マンチェスター大学	2	2	3	2	3	2	2	3	2	2	3	1	15	12
ヒューロン大学											3	1	3	1
ジョージア大学		2	2	1	2	1	1	2	1	2	4	2	1	1
テネシー大学		3	2	1	1	1							3	5
ニューヨーク市立大学											5	2	5	2
メリーランド大学			1			1					1		2	1
ユタ州立大学	1	2	2	1	2	1	1	2	2	1	1	1	9	8

神戸大学国際文化学部

オーフス大学	3		3		2	3	2		1			1	4	
ハンブルク大学	4	2	3	6	3	3	2	4	2	6	4	4	18	25
ベルリン自由大学									1		2		3	
ライプツィヒ大学							1		2	2	2	3	4	6
ワルシャワ大学	2	1			2		1		2		2		9	1
バベシュ・ボヨイ大学	2			2	1	2		2	1	2		2	4	1
モスクワ教育大学			2		1		2		1		3	1	9	1
サンルイ大学											1		1	
ルーヴェン大学			1		2	1	2	1	2	1	1		8	3
グルノーブル第3大学			2		3	1	3	2	2	1	2	1	12	5
ニース大学	3												3	
レンヌ第1大学					2		2		2		1		7	
ナポリ東洋大学											1		1	
ボローニャ大学	2	2	2	1	1	4	2	1	1	2	2	1	1	11
バルセロナ自治大学									3		2	2	5	2
国立台湾大学									1		1	1	2	1
上海交通大学		1						1				1		3
ソウル国立大学			1										1	
クイーンズランド大学			2	1	1	2		2	2	4	1		6	9
西オーストラリア大学		1	1	1	1	2	2	2	3	2		1	7	9
ロンドン (SOAS) 大学	1		1	2			2	2			1		5	4
ピッツバーグ大学			2			3	1					2	3	5
ワシントン大学	2	1	1		2	1		1					5	3
グラーツ大学	1		3		1			1			1	3	6	4
ソフィア大学										2		1		3
カレル大学			2		1				1				4	
ヤゲウォ大学							3		3	1		1	6	2
パリ第2大学	1		1		1								3	
パリ第7大学	2		2	2		2	1	1	1	1	1		7	6
パリ第1大学	2								1				3	
ヴェネツィア大学					1		2	1	2		1		6	1
ライデン大学			1				1						2	
計	36	26	49	34	41	47	39	37	43	43	52	52	26	239

《資料 25：海外研修プログラム参加状況》

年 度	H24	H25	H26	H27
文化をめぐる国際関係に関する集中研修プログラム (UNESCO、EU 等にて)	14	8	13	13
EU 文化研修プログラム(ルーヴェン大学等)	3	4	5	10
文化的多様性を促進するドイツ文化政策の研修	3	6	4	3
「移民・移動と摩擦～日本とヨーロッパにおける政治的・文化的 境界の検証」 イタリア・ナポリ海外研修プログラム*				14
「[援助対象地域]?アフリカ社会・文化を実地に知る体験プロ グラム」*				3

*は平成 27 年度より実施。

《資料 26：グローバル人材育成推進事業実績》

年 度	H24	H25	H26	H27
卒業時の外国語力スタンダード TOEIC 760 又は TOEFL-iBT 80 達成者数	-	32	38	52
海外留学経験者数	31	41	67	82
3カ月未満	0	0	21	42
3カ月～1年	31	41	46	39
1年超	0	0	0	0

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

事例① 免許資格取得状況

本学部卒業生の就職率が高い水準にあることは《p 3-18》で述べたとおりであるが、本学部では教育職や資格取得も視野に入れた学部教育を行っている。

本学部では「中学校教諭一種 英語」及び「高等学校教諭一種 英語」の教員免許状を取得することができ、《資料 27》にあるように毎年度一定数の学生が免許状を得ている。

本学部ではまた、平成 21 年度に、「学芸員」資格を取得できるよう授業科目を新たに整備し、卒業生のキャリアパスの拡大を図った。平成 23 年度以降の卒業生の資格取得状況は《資料 28》のとおりである。

《資料 27：教員免許取得状況》

種 類	教科	H27 年度	H26 年度	H25 年度	H24 年度	H23 年度	H22 年度
中学校教諭一種	英語	5	8	5	6	9	11
高等学校教諭一種	英語	5	14	10	11	13	14

《資料 28：その他の資格取得状況》

資格の種類	要 件	H27 年度	H26 年度	H25 年度	H24 年度	H23 年度
学芸員の資格	在学中に所定の単位を修得した者は資格を有する。	3	7	6	15	5